

事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 8年 3月 2日

事業所名 放課後等デイサービス 花園2号館

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令通りの床面積を確保し、宿題コーナーや静養室などの個室を設けています。	
	②	職員の配置数は適切である	○		保育士や児童指導員を含む職員を法令に従い常時配置しています。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレ等も広くスペースをとり、車椅子であっても利用しやすい環境を用意しています。	建物入口に段差があるため、こまめな声掛け等を行い対応しています。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日々ミーティングや申し送りを行い子ども達個々に沿った支援方法を職員間で話し合い、サービス計画作成を行っています。	長期休暇中は朝早くから子ども達が登所してくるので職員皆でのミーティングの時間を取ることが難しいですが、お昼寝中などなるべく話し合いの時間を取るように心掛けています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			引き続き保護者向けのアンケート調査や日々の保護者とのやり取りの中で得た情報を活用し業務改善につなげます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			障がい児療育に博識な方にコンサルティング業務委託を行い外部評価を受けています。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		障がい児療育についての経験や知識が豊富な講師の方にお願ひし、事業所内で研修を行っています。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々ミーティングや申し送りを行い子ども達個々に沿った支援方法を職員間で話し合い、サービス計画作成を行っています。	行政、学校、就労移行支援事業所の方にも話を伺いながら、子ども達の将来につながる支援の方法も模索しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		子ども面談をし子ども達の将来の事やそれに向けて現状必要なことは何かを分析し療育に繋げています。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々、子ども達の特性を考慮しながら職員皆でアイデアを出し合っています。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動に飽き来ないように職員間で話し合い、お楽しみと療育のバランスをとった活動を行っています。	平日はそれぞれの学校終了時間が異なるので活動時間の調整が難しく、逆に長期休暇中は長すぎて子ども達の集中が途切れることがあるので改善策を日々検討し飽き来ないよう工夫しています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は習慣活動、長期休暇中は平日にできない活動や社会性を育む活動をしています。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		子ども達の障害特性、相性、心理状況等を考慮しながら活動のバランスをとっています。	子ども達を取り巻く状況が個々に違うため活動計画を立てることが難しい現状がありますが、子ども達皆が平等に楽しんでもらえるよう計画作成に時間を費やしています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日申し送りを行い、子ども達の様子や状況等を共有しています。	長期休暇時は早い時間から子どもたちが登所しているため、職員全員での打合せ時間が取りづらいう状況がありますが、タイミングを見てお互いに確認をするようにしています。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後にその日にあった出来事等を職員間で話し合う時間を設けています。		

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子ども達個々の記録は毎回しっかり取り、申し送りやミーティング時に有効活用しています。	記録の量がとて多く、そちらに気をかけすぎると一番肝心な子ども達の支援が手薄になるので、しっかりバランスがとれるように記録方法の改善や時間の調整を行っています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングや個別支援計画の見直しその他、必要に応じて個別支援会議を実施し、支援の見直しを行っています。	事業所利用が極端に少ない子達に対するサービス計画作成が課題です。まずは登所率をあげられるよう対策を練って対応していきます。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		活動を考える時に使う参考資料にガイドラインを利用しています。	ガイドラインに限らず、教則本等の内容は事業所が抱える状況に微妙に当てはまらないことが多く、せつかくの参考資料を上手く活用できていない現状があります。今後職員の資質向上を図りながらガイドライン等もきちんと活用しているように努めます。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		施設長を始め、児童発達支援管理責任者、必要であれば担当職員等その時の状況に最適な職員を参画させています。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		子ども達の支援にはご家族、学校、行政、事業所がしっかり連携を取ることが大切だと考えているため、情報共有等はしっかりおこなっています。	子ども達が通うほとんどの学校とは良い関係を構築させて頂いていると思っています。ただ全てとは言えないので今後どの学校ともしっかり連携を取らせて頂けるように努めます。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		保護者が主治医との連絡を望む場合には、しっかり対応できるよう連絡体制を整えます。	子ども達の主治医と直接お会いしてお話を聞くことはあまり行えていませんが、連携が必要であればいつでも動ける体制を整えています。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		子ども達の通っていた幼稚園や保育所の相談支援員さんと連携を取らせて頂いています。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		子ども達の相談支援員さんに間に入ってもらう情報の提供や共有を行っています。	必要時のみの対応となっているのが課題です。今後各施設とより良い関係を築いていけるように努力していきます。勉強会や研修等にも参加できるように努めます。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要時には相談支援員さんに間に入ってもらう助言を受けたりしながら連携を取らせてもらっています。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			外活動時に近所の子も達と一緒に活動することがある程度で特別交流をしてはしません。今後子ども達の様子を見て交流の機会を作ればと思います。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			時間が取れず積極的に参加はしていませんが、日々協議会のことは気にかけているので、時間の調整ができれば参加したいと思います。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を活用したり、送迎時の親御さんとの対応、面談等の機会を用意し共通理解に努めています。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		事業所に助言を求めてくださる保護者には僭越ながら助言等の支援をさせて頂いています。	子ども達の支援に関しては保護者の皆様と一緒に考えて連携を取らせて頂きながら行っています。
	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や面談時等必要に応じてゆっくり丁寧に説明をさせて頂いています。	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の皆様が話しやすい環境を作るように日々努めています。	

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	前年度も保護者会の要望がありませんでした。	保護者会等に参加することが苦手な親御さんが多く、当事業所では保護者会等を積極的に催していません。ただ保護者会の希望があれば今後考えていきます。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情に関しては契約時や面談時にしっかり説明をし、苦情があった場合にはすぐに法令を遵守した事業所内のマニュアルに沿って対応をさせて頂いています。	苦情があった場合はすぐに事業所内確認を行い、その後の障害福祉課に連絡を入れ相談させて頂いています。子ども達に不利益が生じないように細心の注意を払いながら法令に則った対応を心がけています。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	行事予定などの全体的な会報などは作成していませんが、活動内容については連絡帳を通して発信しています。	定期的な会報は行っていませんが、活動予定等は親御さん個々に直接お伝えしたり、連絡帳を使用したりして対応しています。今後保護者さんとの情報共有の機会を増やすなど改善してけるように努めます。
	③⑤	個人情報に十分注意している	○	職員に個人情報に関する誓約書を書いてもらう等して対応しています。	日々個人情報の取り扱いには十分に気を付けていますが、仮に流失が認められた場合は細心の注意を払いながら速やかに対応いたします。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	利用者さんや保護者さん個々に合わせた情報伝達を行っています。	親御さんから情報伝達の方法や意思の疎通に対し不具合がある場合はいつでも施設長に相談して欲しい旨、お願いしております。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域の文化祭やフリーマーケットに参加し、交流する機会を設けています。	町内会の活動に参加するなど努力はしていますが、事業所に地域住民を招待する等のイベントを行うのはかなりハードルが高いため今後何かできないか検討致します。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		マニュアル周知に関して保護者の皆様に対する説明は改善はされてきましたが、まだ不十分なので引き続き面談時等にマニュアルの事をお伝えさせて頂き保護者の皆様に周知していきます。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に3回各災害を想定した避難訓練を実施しています。	避難経路の散策や避難方法の動画を見たりしながら非常災害に対する子ども達の意識改革を行っています。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	職員間で虐待に関する話をしたり、研修に参加するなどして対応しています。	研修等には参加をしていますがまだ十分とは言えないので、今後も虐待防止に関する情報に気を配りながら支援に取り入れていきます。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	子ども達がイライラを自分自身、他者、物に対しぶつける等した場合はやむを得ず行動を抑えることがあることを契約時、面接時等に説明しています。	今まで身体拘束が必要な子ども達がいたことのないのでサービス計画に明確に記載していません。今後しっかり書面にて保護者の皆様に周知し、記載するよう対応します。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書を持っている利用者さんに関しては拝見させて頂き、それ以外の利用者さんに対しても親御さんと連携しながら対応をしています。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット事例集を作成し職員間で情報の共有を行っています。	記録の仕方等、引き続き改善してけるように努めます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。